

令和5年度組織目標 知事協議概要

部 局 名	教育委員会事務局
日 時	令和5年(2023年)4月19日(水) 14:00~14:20
場 所	特別会議室
出 席 者	知事、江島副知事、大杉副知事、知事公室長、総合企画部長、総務部長、総務部管理監 教育長、教育次長(管理担当)、教育次長(指導担当)、教育総務課長、教職員課長、高校教育課長、幼小中教育課長、特別支援教育課長、人権教育課長、生涯学習課長、保健体育課長

発言者	発言概要
大杉副知事	<p>笑顔あふれる学校づくりのところは、できれば子どもたちの声を取り入れるように。これから子ども条例ができていく中で、学校運営に子どもたちの声をどう反映させていくか。こないだの子どもたちとの意見交換の中でも校則の話がかなり出てきており、校則の中身のこともあるが、先生方がその必要性を伝えきれていない部分もあったように思うので、そのあたりを意識していただくのも大事。</p> <p>困難な環境にある子どもたち、不登校に関連しては、積極的に他部局も巻き込み、加えて市町との線引きをしすぎないようにしていただき、一緒に動ける形をうまくつくっていただければと思う。</p>
江島副知事	<p>特別支援学校について、方向性を決めたいということで、よろしくお願ひしたい。</p> <p>図書館について、コロナが明けてきて図書館の中も自由に使えるようになり、色々なことを考えておられると思う。プランをお聞かせいただきたい。</p>
図書館長	<p>「こども としょかん」については、すべての子どもたちがおかれた環境に関わらず、というところに重きを置いている。市町の図書館長からも、子どもの読書の2極化が進んでいると聞いている。子ども自身の資質もあるかと思うが、子どもを取り巻く環境の違いによって、子どもの将来的な教育の格差などに繋がるようなものをできるだけ埋めていく存在として、学校図書館や公共図書館はありたいと思う。子どもの家庭の読書環境、文化資本の差を少しでも埋めていけるような取組ができればと思う。</p>
知事	<p>笑顔あふれる学校づくりだが、まずは教育委員会が一番笑顔あふれる職場になるように。</p> <p>今年度、不登校に力を入れる。首長会議でも議論したが、7月・10月・1月、テーマとしてチャレンジしようと思う。具体の取組という意味で、SC・SSWの関わる時間が目標でいいのか、現場がやってほしいことに対して、掲げる目標がこれでいいのかなという思いはある。</p> <p>「こども としょかん」は、館長のおっしゃったことに強く共感する。コンセプトに基づいて基本方針を決定していくが、ぜひ、学校図書館の司書も含めて考えていこう。</p> <p>部活動の地域移行と全中駅伝は、ぜひ、滋賀県ならではの取組として、特に、大学などの地域資源を生かした部活動地域移行を進めていこう。</p> <p>トビタテに応募しようという高校生から知事への手紙が来ている。マイスター(ハイスクール事業の指定校)へ行った時もトビタテに応募しようという生徒がいるなど、早くも色々な反応が出て楽しみ。</p> <p>高校の魅力化は、普通科、工業高校、農業高校含めて打ち出していけるように。ここにはぜひ、北部振興の視点を入れ、強く打ち出してほしい。</p> <p>入学者選抜方法の改善については、議会や県民のみなさんのご関心も高いと思うので、できるだけ前広にご説明できるようにしていきたい。</p> <p>幼児教育センターについては、また議論しよう。</p> <p>特別支援学校の設置検討については、インクルーシブを進めながらも、必要な施設はつくらないといけない。本質的な議論になるようにしていこう。</p> <p>人権も大事。普遍的な取組もあるが、ぜひ、世界で最新の人権の取組ができるように。</p> <p>業務の見直しについては、申請や出願など、こういったものは徹底電子にし、証紙など貼らなくてもいいように。また、24時間受け付けられるよう、できるだけ早くできるようにしよう。他の所属の皆さんも、業務の見直しは徹底的にするように。特に、教育委員会の職場は大量の紙があり、狭くて大変だという話も聞いたことがある。</p>